

新春特別インタビュー

2020年新春号では昨年までと趣向を変え、以下のお三方に、インタビュー形式にて新しい年に向けての抱負等をお聞きいたしました。



消費者庁
長官

伊藤 明子

2020年とはどのような1年となるでしょうか。

消費者庁は、昨年9月に設立10周年を迎えました。令和の時代に飛躍・発展できるよう、今一度原点に立ち返り、消費者行政の司令塔として消費者行政の推進に現場重視で向かい合う1年にしたいと考えています。2020年は、食品表示法に基づく新たな食品表示制度への完全移行、食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針を踏まえた取組の本格化がなされます。

また、昨年9月には、消費者庁として初の国際会合となる「G20消費者政策国際会合」を徳島で開催しました。2020年度には、恒常的な拠点として「消費者庁新未来創造戦略本部」を設置します。新たな本部は国際交流等の業務を通じて国際的な連携の担い手となることも期待されます。

さらに、今年2020年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、世界各地から多くの人々が日本にやってきます。国際化やデジタル化の進展に伴い生じる新しいタイプの消費者トラブルについて注意を払わなければならないと考えています。

このようなことを踏まえ、社会情勢の変化に対応した第4期消費者基本計画を策定し、新たな時代にふさわしい消費者政策を推進するとともに、現場である地方消費者行政の充実・強化にも取り組めます。

消費者庁が2020年に力を入れて取り組みたいことは何でしょうか。

消費者問題は広範であり、その変化も著しいため、行政の規制だけでなく企業や団体の自主的な取組が重要です。消費者と事業者との協働の取組として「消費者志向経営」の一層の推進が必要と考えています。

長官ご自身の2020年の希望をお聞かせください。

昨年は台風等による大規模な災害もございました。今年はそうした災害のない穏やかな1年であるようにと思っています。消費者庁の長官に着任して2年目を迎えますので、皆さんと十分意見交換して、腰をすえた取組ができる年にしたいと考えています。



公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会

会長 河上 正二

2020年とはどのような1年となるでしょうか。

いよいよ令和も2年目を迎えました。

令和に入ってから、本当に、様々なことが起きました。とくに異常気象や台風・大雨、地震などの自然災害の頻発には、目を覆いたくなるようでした。消費者基本法2条の基本理念の冒頭に掲げられた「国民の消費生活における基本的需要が満たされ、その健全な生活環境が確保される中で…」というところが、いかに大切かを痛感させられます。

2022年4月からは改正民法も施行されますし、消費者契約法の改正や民法の成年年齢引き下げ等、大きな時代の変化の中で、制度的改変もすすみます。消費者自身、たくさん学ぶ必要があります。また、多くの高齢者や若者など脆弱さを備えた消費者に対する支援策や、消費者教育の実践、見守り活動も大切な仕事になります。

NACS会長として2020年に力を入れて取り組みたいことは何でしょうか。

今お話したような課題がたくさんあるなかで、こんなときこそ、



経済産業省
商務・サービス審議官

藤木 俊光

2020年とはどのような1年となるでしょうか。

あけましておめでとうございます。本年が皆様にとって明るい希望に満ちた一年となることを心からお祈り申し上げます。

2020年はなんと言っても東京オリンピック・パラリンピックです。鍛え抜かれたアスリートの技と力がどんなドラマを生むのか、世界中の視線が日本に集まります。このところ少し内向きうつむきがちな私たちも、是非世界に目を向け、選手の皆さんに負けず、世界にむかって日本をアピールする年にできれば、と思います。

経済産業省は2020年、何に力を入れて取り組まれますか。

AIやビッグデータなど最先端の情報技術を私たちの暮らし・仕事にどう活かしていくのか、「データを使うと私たちの生活がどう便利で豊かになるのか?」、具体的で実践的な答えが求められています。「キャッシュレス」もただの流行に終わらせてはいけません。安全安心をしっかりと確保しつつ、同時に、日々の暮らしを便利で豊かなものにする「真に役立つサービス」を創り出し、根付かせていきたいと思っています。地域コミュニティの活性化、子供や高齢者の見守り、健康投資、フードロス削減など様々な「課題解決型サービス」を支援していきたいと思っています。

審議官個人としての2020年の目標をお聞かせいただけますか。

過去において、「一日一万歩」、「週二日の休肝日」、「一日一善(又は一膳)」、いずれも無理でした。したがって、「無理はしない、いい格好をしない」くらいでいかがでしょうか?



消費者に寄り添って消費者のためにNACSならではの活動ができるよう、消費者団体としての旗色を鮮明にしつつ、精一杯頑張らねばと、覚悟を新たにしています。

NACSが良くなれば、日本の消費者政策も良くなると信じ、一歩一歩、前に向いて歩みを進めていきたいと思っています。NACSには多様な出自の会員が在籍し、それぞれが専門性を活かして活動をしています。そのことこそが、NACSの強みでもあります。NACSならではの強みを活かして、会員の皆さんと手を取り合い、消費者のために頑張りたいと思います。

河上会長ご自身の2020年の目標をお聞かせください。

NACS会長として2回目の新年を迎えました。会長としての使命を果たしていくためにも、今年はいくらでも以上に健康志向で日々を過ごしたいと思っています。